

# 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業 ～ 関西・瀬戸内“空の廊下”構築プロジェクト～ 事業成果報告書



申請者：(一社)MASC



協力事業者:

(株)Sanwa Aerospace Industry(SAI)

(株)パソナグループ オリックス(株) (株)建設技術研究所 (株)日本空港コンサルタンツ

(株)AirX (株)トラジェクトリー アエリアル・イノベーションLLC EHang

2025/3/19

# 目次

---

1. 企業概要 .....	3
2. 実施概要 .....	7
3. 実施結果	
(1)飛行実証等ビジネス化に資する事業 .....	10
(2)ビジネスモデルの検証に資する事業 .....	21
4. 今後の課題 .....	28

---

# 1. 企業概要

# コンセプト

## ■ プロジェクト名称

### 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業 ～ 関西・瀬戸内“空の廊下”構築プロジェクト ～

## ■ 問題意識・プロジェクトの目的

- ・2025年の大阪・関西万博に向け、空飛ぶクルマの開発が進められているものの、開発には遅れが生じており、また、事業環境の整備も十分に整っていない状況にある。こうした状況から、万博後の早い段階における事業化に必要となる、空飛ぶクルマを安全・円滑に事業運航させるための諸課題については検証しきれていない。
- ・「空の移動革命に向けた官民協議会」では、今年から「無操縦者航空機」についての検討を開始するとされているが、無操縦者航空機の課題等の洗い出しができていない。
- ・2025年の大阪・関西万博の成功に向け、空飛ぶクルマの意義や効果を含む社会受容性を高めていくための継続的な取り組みが必要。



## ■ 対応すべき課題

- ・本プロジェクトは、空飛ぶクルマの社会実装に向け、クリアしなければならない優先度の高い以下の課題を検証した。

課題1：無操縦者航空機の安全運航を実現するための技術検証を推進すること。

課題2：バーティポートの材料による電波への影響を検証すること。

課題3：空飛ぶクルマの特性を活かしたゼロエミッション化を実現すること。

課題4：空飛ぶクルマの国内事業予定者に運航体制を実現していくこと。

課題5：事業化の際の拠点となる基地候補や事業採算性を確認すること。

課題6：事業性に配慮した一時的なバーティポートの設置方法を確立すること。

課題7：空のモビリティに対する社会受容性を高める取り組みを推進していくこと。

# コンソーシアム構成企業 実施体制

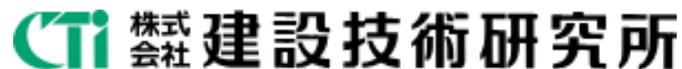
- 本事業は、(一社)MASCが申請者、協力事業者として運航、ポート計画・設計、ポート運営、通信、UATM等、各界の専門事業者から成るコンソーシアムを構成して実施した。

<申請者>



連携・協力

<協力事業者>



# 実施体制

- 本プロジェクトは、一般社団法人MASCを申請者とし、協力事業者としてはそれぞれ専門的な知見を有する企業群、地域における取り組みを進める企業群により構成される計10社によるコンソーシアムにより遂行した。

種別	構成企業名	役割分担
申請者	一般社団法人MASC	プロジェクト全体統括、飛行許可申請 空飛ぶクルマ実証 等
協力事業者	株式会社Sanwa Aerospace Industry(SAI)	調査・研究、環境影響評価、機体管理、 安全管理、各種調整 等
	株式会社パソナグループ	実証場所提供、関係者調整、ゼロエ ミッション実証 等
	オリックス株式会社	バーティポート設置場所検討、バー ティポート運用検討 等
	株式会社建設技術研究所	出前授業の実施、有望ルート抽出・適 地選定、離着陸場の運用検討 等
	株式会社日本空港コンサルタンツ	有望ルート抽出・適地選定、離着陸場 の運用検討 等
	株式会社AirX	アドバイス
	株式会社トラジェクトリー	UTM構築・運用
	アエリアル・イノベーション LLC.	アドバイス
EHang	飛行オペレーション	

---

## 2. 実施概要

# 2024年度の取り組み概要

---

- ・2024年度、本コンソーシアムでは、4つの検証事項・11項目の取り組みを計画しました。
- ・関係各所との調整の結果、10項目の取り組みを実施し、それぞれ今後の事業化に向けた有用な成果を得ました。

## ■ 対応した課題

- ・本プロジェクトでは、空飛ぶクルマの社会実装に向け、クリアしなければならない優先度の高い以下の課題を検証した。

### 課題1：安全運航を実現するための技術検証

2024年9月12日 大阪ヘリポート⇄尼崎フェニックス間の試験飛行の実施

### 課題2：VP材料による電波への影響を検証

2024年11月21日 大阪港 I 岸壁にて平台船の磁気調査を実施

2025年2月28日 淡路市役所前での試験飛行

### 課題3：ゼロエミッション化を実現

2025年3月2日 淡路市役所前での試験飛行

### 課題4：国内事業予定者にて運航体制を実現

国内および海外含めたパイロット/整備士の養成

### 課題5：拠点となる基地候補や事業採算性を確認

大阪・兵庫の府県間実証フライト／離着陸場候補地の抽出の実施

### 課題6：一時的なバーティポートの設置方法の確立

水上ポートに関する調査の実施

### 課題7：社会受容性を高める取り組みを推進

2024年9月12日 小学生の試験飛行見学会を実施

2025年3月3日 小学校へ出前授業を実施。

2025年3月3日 「空飛ぶクルマ関西フォーラム」を開催。

# 検証事項

## ■ 本事業の目的

・空飛ぶクルマの有望なサービスメニューである「観光利用」を見据えた社会実装に向け、クリアしなければならない優先度の高い以下の事項を検証することを目的とする。

## ■ 検証事項

### (1) 飛行実証等ビジネス化に資する事業

#### ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

- 1) 空飛ぶクルマの**実機**を用いた**ADS-B・UTM連動実証**の実施【課題1】
- 2) 空飛ぶクルマの**電波障害に関する検証**の実施【課題2】
- 3) **ゼロエミッション(CO<sub>2</sub>ゼロ)**に資する**実証飛行**の実施【課題3】

#### イ. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた人材育成

- 1) 国内事業予定者による運航に向けた**パイロット／整備士の養成**【課題4】

#### ウ. 空飛ぶクルマのビジネス化に資するその他の取り組み

- 1) コリドー構築に向けた**大阪・兵庫の府県間実証フライト**の実施【課題5】
- 2) 関西～瀬戸内を結ぶ“空のコリドー”構築に向けた**離着陸場候補地の抽出**【課題5】

### (2) ビジネスモデルの検証に資する事業

#### ア. 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備に資する実証実験

なし

#### イ. 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備に資する調査・検討

- 1) **水上ポートに関する調査**の実施【課題6】

#### ウ. 空飛ぶクルマの社会受容性向上に向けた取り組み

- 1) **空飛ぶクルマ関西フォーラム**の実施【課題7】

---

## 3.実施結果

### (1) 飛行実証等ビジネス化に資する事業

# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

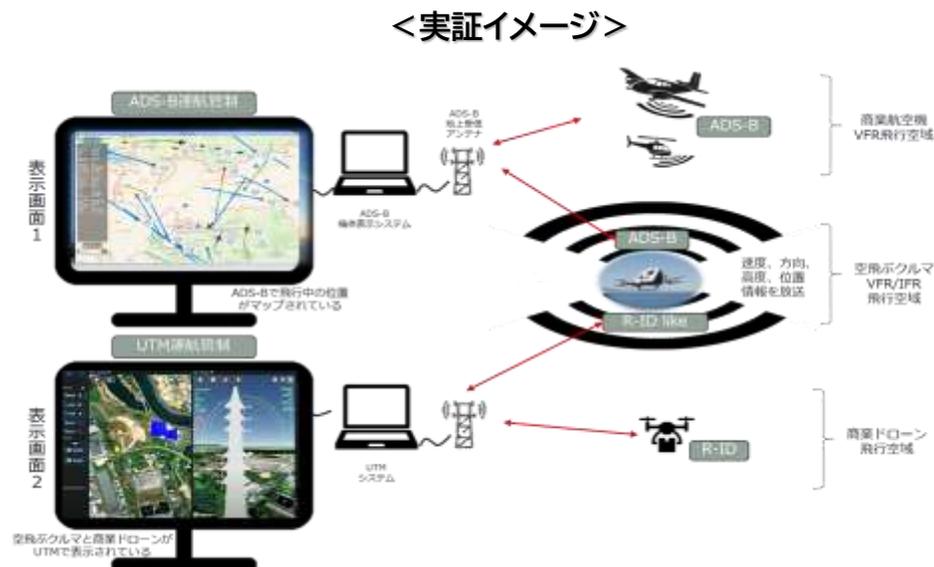
## 1) 空飛ぶクルマの実機を用いたADS-B・UTM連動実証の実施

■目標：ADS-Bの受信精度の向上。ADS-B※1とUATM※2の連動試験の成功させること。



◆成果：ADS-BシステムとUATMシステムの連動に成功した。（日本初）

- 2024年9月12日 大阪ヘリポート⇄尼崎フェニックス間における実証フライトにて実証試験を実施し、機体に搭載したADS-Bの発信する位置情報を、UATMシステムに取り込んでUATMシステム内で位置情報を確認出来た。（P12～13参照）
- 受信の安定性など改善の余地があるものの、将来の空飛ぶクルマの運航管理を可能とする第一歩となった。



※1 ADS-B Automatic Dependent Surveillance-Broadcast 放送型自動従属監視  
※2 UATM Urban Air Traffic Management 空飛ぶクルマの運航管理システム

# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## 1) 空飛ぶクルマの実機を用いたADS-B・UTM連動実証の実施

### ■ UATMにおける位置映像

UATM画像

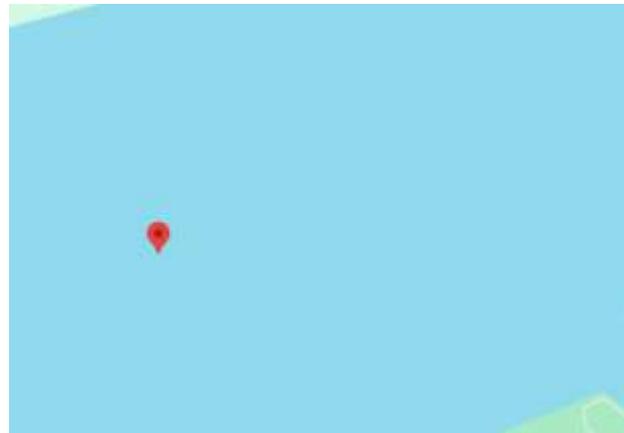


Google Map 上での座標位置



往路

万博大屋根リング



復路

神戸方面

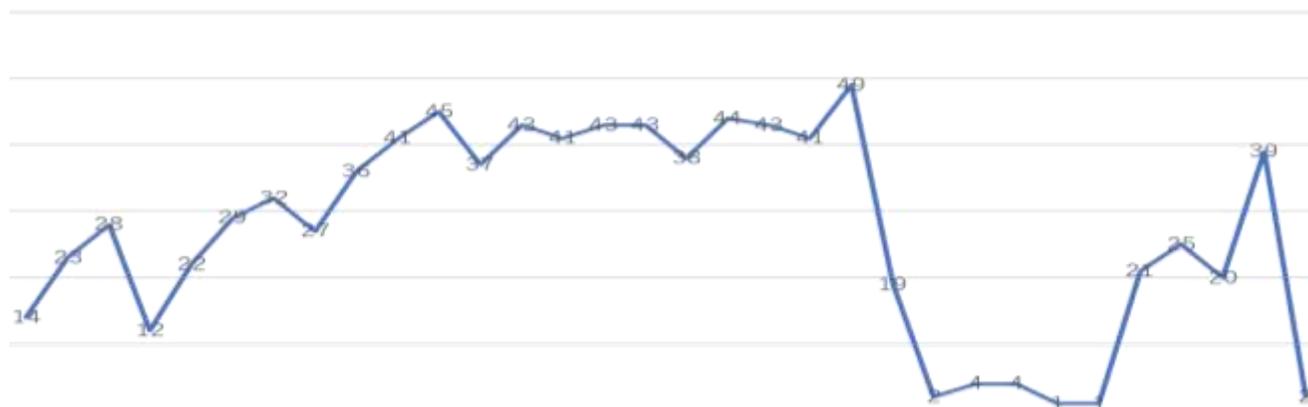
# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## 1) 空飛ぶクルマの実機を用いたADS-B・UTM連動実証の実施

### ■ ADS-BデータのUATMにおける受信データ数

ADS-B通信回数(往路)

回数



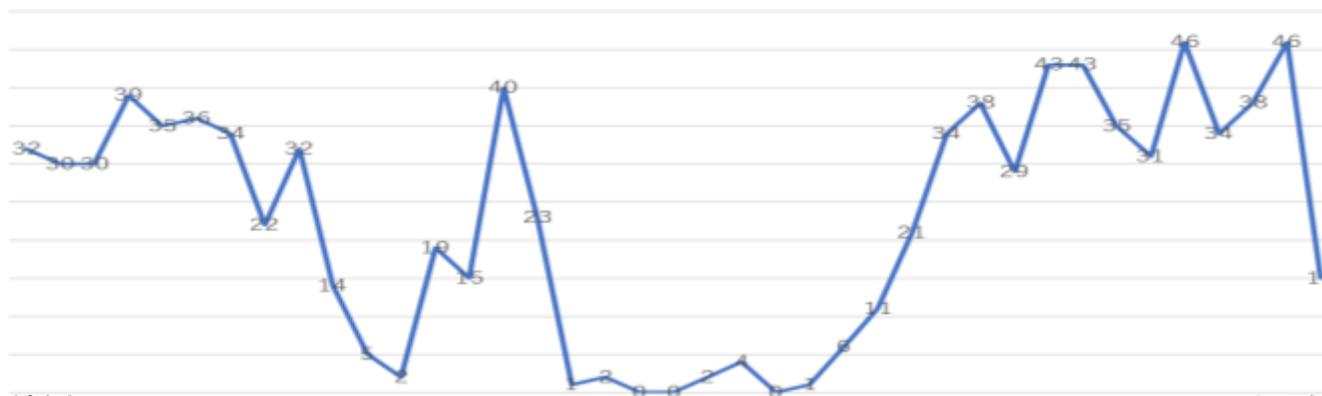
大阪側

尼崎側

離陸直後から受信データ数が増加、尼崎側に近づくにつれ、受信データ数が減少

ADS-B通信回数(復路)

回数



尼崎側

大阪側

離陸直後受信データ数が減少、大阪側に接近するとデータ受信が安定する

# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

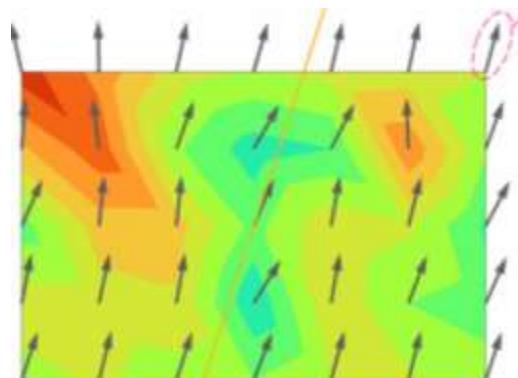
## 2) 電波障害に関する検証の実施-1(平台船の磁気検査)

### <問題点>

- 将来的に、建物屋上等において空飛ぶクルマの離着陸場を金属で整備した場合、電波障害の発生など、通信に影響が生じ、安全運航に支障をきたす可能性が指摘されているが、実際に空飛ぶクルマの実機を活用してその影響・障害の有無等を検証した事例はない。

### <今年度の実施事項>

- 2024年11月21日 大阪港 I 岸壁にて平台船の磁気調査を実施。平面に機材を固定するための溶接などにより多少の残留磁気が残っている部分があるものの、必要により脱磁等を行うことで、残留磁気のある部分においても、**小型ドローン**にて、コンパスキャリブレーション(コンパス修正)も可能であり、**敷き鉄板の上においても、飛行可能であることを確認した。**



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## 2) 電波障害に関する検証の実施ー2(地上での実機試験)

### <今年度の実施事項>

- 将来的に、建物屋上等において空飛ぶクルマの離着陸場を金属で整備した場合、電波障害の発生など、通信に影響が生じ、安全運航に支障をきたす可能性が指摘されているが、実際に空飛ぶクルマの実機を活用してその影響・障害の有無等を検証した事例はない。

■ **目標:** 金属製ポートにおける飛行の可否や有効な対策を把握すること。



◆ **成果:** 空飛ぶクルマの飛行は出来なかったものの、鉄製ポートにおいても有効な対策が明確となり、平台船等の運用のための数字データを取得できたことにより、実運用に大きく前進することが出来た。



鉄板の上にゴムを曳いている作業中



鉄板上で飛行コース確定用ドローンで確認中



鉄板及びゴムの敷設状況



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## 3) ゼロエミッション(CO<sub>2</sub>ゼロ)に資する実証飛行の実施

### <今年度の実施事項>

- 空飛ぶクルマのメリットである「環境負荷の低さ」を真に実証するため、環境省「脱炭素化モデル事業」において「脱炭素先行地域」として指定されている兵庫県淡路市におけるメガソーラーから受電した電力で空飛ぶクルマの実証飛行を行うことで、ゼロエミッション(CO<sub>2</sub>ゼロ)に資する飛行を実現する。



■成果目標：太陽光発電を活用し、空飛ぶクルマの実証飛行を成功させること。



◆成果：太陽光発電からの電力を活用し、空飛ぶクルマの実証飛行は成功。(日本初)



EVポイントからの充電の様子



充電の状況



CO2ゼロフライトの実施状況

# イ. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた人材育成

## 1) 国内運航体制の確立に向けたパイロット／整備士の養成

### <今年度の実施事項>

- 今後、国内のTC(型式認証)取得を予定している無操縦者航空機の国内運航体制の構築に向け、海外メーカーによる養成訓練を受講し、パイロット並びに整備士(教官を含む)を養成出来た。

■目標: 事業化に向けたパイロット、整備士、運航管理の人材を育成すること。



◆成果: メーカーのパイロット、整備士、の人材を育成が出来た。  
(パイロット 4名 整備士 4名)



EHANG社  
Pilot Training  
修了書

Auto Flight社  
Mechanic  
Training  
修了書

EHANG NADAO-2R

姓名: 田中 隆太 登録ID: 1001001  
姓名: 佐藤 大輔 登録ID: 1001002  
姓名: 鈴木 健太 登録ID: 1001003  
姓名: 高橋 誠也 登録ID: 1001004

This study successfully completed in Tianjin, China. All flight instructor and ground instructor are qualified by the Civil Aviation Administration of China (CAAC) and are able to sign off on training.

Item	Name	Grade	Pass	Score	Pass	Score
Pilot	田中 隆太	CFE (1st)	100	100	100	100
Pilot	佐藤 大輔	CFE (1st)	100	100	100	100



# ウ. 空飛ぶクルマのビジネス化に資するその他の取り組み

## 1) コリドー構築に向けた大阪・兵庫の府県間実証フライトの実施

### <今年度の実施事項>

- 空飛ぶクルマの実機を活用し、大阪・兵庫の府県間を結ぶ2地点間フライトを実施した。
- 2024年9月12日大阪舞洲大阪ヘリポートより尼崎フェニックス事業用地間の海を隔てたフライトを実施した。

■ **目標**：空飛ぶクルマの実機による府県間を跨ぐ実証飛行を成功させること。



◆ **成果**：府県間を跨ぐ実証飛行を成功させた。

- 府県間を結ぶ2地点間フライトを実施したことにより、様々な調整、問題の抽出が出来、今後のコリドー構築に向け、抽出した内容に基づき、ルート作りの基礎となる体制が今後、必要となる。



# ウ. 空飛ぶクルマのビジネス化に資するその他の取り組み

## 2) 関西～瀬戸内を結ぶ“空の廊下”構築に向けた離着陸場候補地の抽出

### <今年度の実施事項>

- 2023年度に実施した当コンソーシアム(共同事業者として参画)のプロジェクトにおいて抽出したVポート設置候補地をベースに、**関西～瀬戸内に向けた空の廊下構築に向けたVポート(バーティカル)の候補地を抽出し**、運航ルートや施設整備の素案や地元調整上の課題等を検討した。

■ **目標**： 関西～瀬戸内を“空の廊下”で結ぶことを見据えた離着陸場候補地を抽出し、具体的な計画立案や課題を検討すること。



◆ **成果**： 離着陸場候補地を抽出し、具体的な計画立案や実現に向けた課題を検討。

## (一社)MASCにおけるビジョン:SCAI28(スカイ28)

### <目標>

- SCAI28では、2028年頃を目標に、AAMインフラ整備を狙って、以下のような課題解決を目指す。
  - ・内陸部や離島間アクセスの改善(既存交通インフラとの相乗効果)
  - ・AAMを活用した訪問医療などの住民サービス改善
  - ・瀬戸内の観光資源への交通アクセス改善
  - ・AAM付帯産業および人材の育成



# ウ. 空飛ぶクルマのビジネス化に資するその他の取り組み

## 2) 関西～瀬戸内を結ぶ“空の廊下”構築に向けた離着陸場候補地の抽出

### ■事業方針

- ①大方針: 2025年大阪関西万博後、関西～瀬戸内を空の廊下で結ぶネットワークを構築。
- ②想定する機体:
  - ・MASCが保有(今後取得予定を含む)する以下の機体の使用を想定する。
    - ⇒EHang社製:EHang216-S(機体スペック:航続距離約35km、巡航速度100km/h)
    - ⇒AutoFlight社製:V2000CG(機体スペック:航続距離約250km、巡航速度200km/h) ※貨物専用
    - ⇒Skydrive社製:Skydrive(機体スペック:航続距離約15km、巡航速度100km/h)
  - ・会員企業である(株)AirXが導入を予定している以下の機体についても想定する。
    - ⇒EVE Airmobility社製:eVTOL(機体スペック:航続距離約100km、巡航速度100ノット(185km/h))

### ③事業イメージ:

- ・導入済の機体並びに今後導入を予定する機体、会員企業が保有する機体を活用し、関西圏及び瀬戸内東部エリア、関西圏～瀬戸内東部エリアを接続する運航を行う。
- ・旅客機のみならず、貨物機も導入し、物流の効率化にも寄与する。

#### <想定するユースケース>

- ・観光(遊覧飛行、周遊飛行、2地点間飛行)
- ・生活・ビジネス(離島交通、一次交通(空港、新幹線駅等)アクセス交通)
- ・災害時活用(人員、物資輸送)
- ・救急医療(医師搬送、医薬品配送など)
- ・物流(幹線輸送、端末輸送など)

### ■■将来構想(フェーズ3(普及期:2040～))■■

	コンセプト	航路など	パーティポート		摘要
			整備・格納拠点(A地点)	端末拠点(B地点)	
フェーズ3(普及期)2040～	エリア全体ネットワーク化ネットワークの更なる拡大	①関西:兵庫内陸部方面、奈良・三重方面、和歌山方面 ②瀬戸内:愛媛、広島、山口方面	①関西:事業エリア拡大に伴い増設を検討 ②瀬戸内:事業エリア拡大に伴い、増設を検討(広島、山口、愛媛方面など)	①関西:サービス実施箇所周辺(兵庫内陸部、奈良・三重、和歌山など) ②瀬戸内:サービス実施箇所周辺(四国内陸部、愛媛、広島、山口など)	



---

## 3.実施結果

### (2) ビジネスモデルの検証に資する事業

# イ. 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備に資する調査・検討

---

## 1) 水上ポートに関する調査の実施

### <今年度の実施事項(案)>

- 水上ポート(浮体式を含む)の構造要件や設置場所(Vストップとして)、仕様等を明らかにするとともに、地上ポートに対するメリット/デメリットや整備コスト、法制度的な課題等を明らかにするための調査を行う。

■目標：水上ポート(浮体式を含む)の活用シーンや構造要件、仕様、地上ポートに対するメリット/デメリットや整備コスト、法制度的な課題を明らかにする。



◆成果：水上ポートの整備方法や各仕様、コスト面、法制度面の課題等を調査・整理。

# Ⅰ. 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備に資する調査・検討

## 1) 水上ポートに関する調査の実施

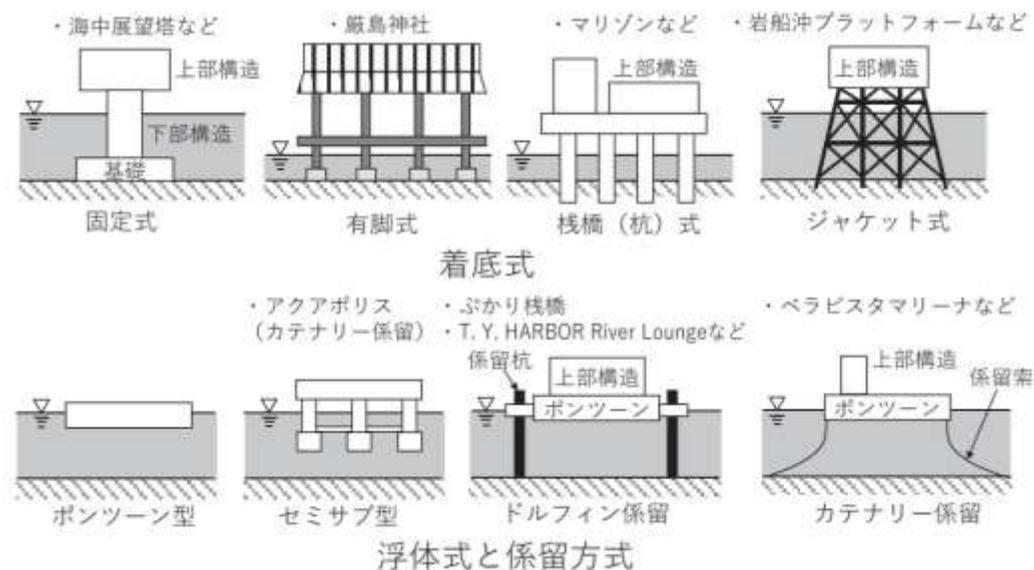
### <水上ポートの活用シーン>

シーン	分類	シーンの概要
シーン①	都市の市街化	水域周辺のVP候補地周辺で市街化が進んでおり、必要な敷地が確保できない場合。
シーン②	地形的要因	VP候補地周辺の地形が急峻で、必要な平地が確保できない場合。
シーン③	環境要因	VP候補地と住居系地域が近接し、騒音の影響が想定される場合。
シーン④	一時的な需要	一時的なイベントや季節性の高い需要のため、ポートを設置する必要がある場合。

### <水上ポートの構造・仕様>

- 水上ポートの構造形式を調査し、その得失を整理した。

#### ■水上ポートの構造形式



#### ■浮体式のタイプ

- ① 鋼製メガフロート: 造船所で大型の区画を製作し、船舶で曳航して現地で接合する方式。



- ② 可搬型組立台船(鋼製): 大型トラックで輸送可能な寸法の鋼製ユニットをクレーンにて現地で接合する方式。



- ③ 可搬型組立台船(ソフトタイプ): 大型トラックで輸送可能な寸法のユニット(ポリプロピレン等のソフトタイプ)をクレーンにて現地で接合する方式。



- ④ 既存平台船の活用: 既存の平台船を現地に曳航する方式。



出典: (一財)建築保全センター機関誌「Re」No.217(2023.1)、「海と建築」(P.6)

# イ. 空飛ぶクルマの実現に向けた環境整備に資する調査・検討

## 1) 水上ポートに関する調査の実施

### <法制度上の課題>

- 水上ポートを具体化するうえで考慮すべき法制度について整理した。

### ■水上ポートに関する法制度

(水域・土地利用の関連法規)：港湾法、漁港漁場整備法、河川法、都市計画法、建築基準法 など

(海上交通の関連法規)：海上衝突予防法、港則法、海上交通安全法、船舶職員及び小型船舶操縦者法 など

(船舶登録の関連法規)：船舶法、小型船舶の登録等に関する法律、船舶安全法 など

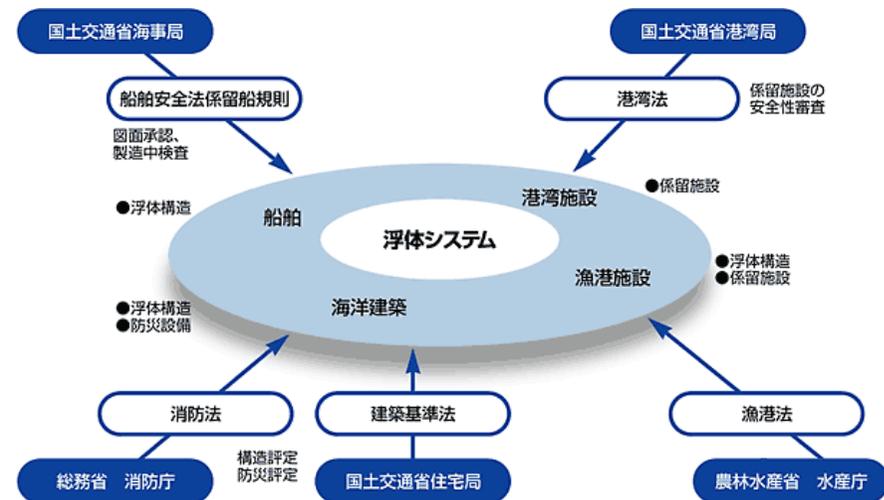
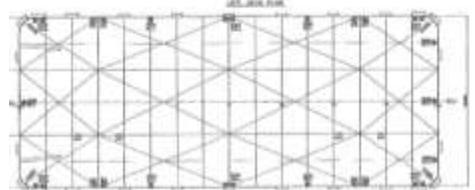
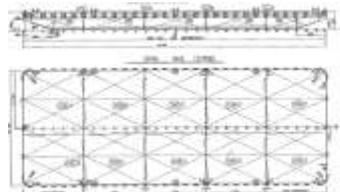
(営業免許等の関連法規)：海上運送法、港湾運送事業法、遊漁船業の適正化に関する法律 など

(環境の関連法規)：自然公園法 など

(その他)：各地方自治体で定めている条例(水域占用など)

### <水上ポートの可能性調査>

- 関西～瀬戸内地域において、水上ポートの可能性のある場所を調査した。



出典：[https://www.spf.org/opri/newsletter/86\\_2.html](https://www.spf.org/opri/newsletter/86_2.html)



# ウ. 空飛ぶクルマの社会受容性向上に向けた取り組み

## 1) フォーラムの開催「空飛ぶクルマ関西フォーラム」

### ～空飛ぶクルマとこれからのまちづくり～

#### <課題点>

- 事業化に向け、関西エリアと瀬戸内エリアをネットワーク化していくことが必要。
- 具体的な事業化を推進するためには、飛行そのものというよりは、観光、物流、防災、救急・救命など、空飛ぶクルマを使って、まちや暮らしをどのように変革していくか、という観点が必要。

#### <今年度の実施事項(目的)>

- 【目的①】:これからのまちづくりを考えていくうえで、欠かせない「サステナビリティ(持続可能性)」をテーマとした空飛ぶクルマの実証飛行を行う。
  - 【目的②】:上記の実証飛行を、未来を担う子供たちに対する環境教育コンテンツとして提供する。
  - 【目的③】:万博後、関西から瀬戸内海エリアにおいて空飛ぶクルマの事業化に向けた地域の機運を高めていくため、「まちづくり」の観点から課題や対応の方向性を見出す。
- ※副次的には、開催まで1か月を切った2025大阪・関西万博を前に、目玉事業の1つである“空飛ぶクルマ”に対する期待感を高める。

■**目標**：関西、瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマを活用したまちづくりの必要性、重要性の認知を高め、社会実装に向けた機運を高めること。



◆**成果**：「空飛ぶクルマとこれからのまちづくり」をテーマとして、さまざまな活用シーンを想定し、各界からの最新動向や必要な観点について講演をいただき、空飛ぶクルマの社会実装に向けた機運を高めることができた。  
(関西、瀬戸内エリアを中心として、現地・WEBあわせて約200名が参加。)

# ウ. 空飛ぶクルマの社会受容性向上に向けた取り組み

## 1) フォーラムの開催「空飛ぶクルマ関西フォーラム」

### ～空飛ぶクルマとこれからのまちづくり～

■■実施状況■■

関係者向けフォーラム（現地＋リモート）

## 空飛ぶクルマ関西フォーラム

～空飛ぶクルマとこれからのまちづくり～

入場無料。事前登録をお願いします。当日受付は先着順にて、お席の空き状況によってのご案内となります。

**2025年3月3日（月）13時～17時**      **実施場所：青海波（京都市野良大川70）**

2025年大阪・関西万博後、空飛ぶクルマの本格的な社会実装が期待されています。関西・瀬戸内海エリアでの事業化に向け、地域の機運を高め、持続可能な「まちづくり」の視点から課題と対応策を探ります。

新たな移動の可能性を共に考え、空飛ぶクルマがもたらす未来へ、一歩踏み出しましょう。

### 基調講演

① まちづくりの先進的な取り組みと空飛ぶクルマへの期待等  
新たなモビリティを核に地域活性化に取り組む自治体の事例を紹介。  
京都府京丹後市長 中山 泰氏

② 2025 大阪・関西万博関連  
万博における空飛ぶクルマの運航やポートの動向を紹介。  
オリックス（株） 法人営業本部国内事業推進部シニアヴァイスプレジデント 杉山 良氏  
(株) Soracle CEO 太田 幸宏氏

③ 海外の動向  
先行する海外における取組を紹介。  
EVE Air Mobility 事業開発部長 北東アジア地域 森 巧氏

**空飛ぶクルマ関西フォーラム**  
参加ご希望の場合はお申し込みください。  
お申し込みは、QRコードより

**空飛ぶクルマと今後の地域づくりを考えるヒント**

空飛ぶクルマを含めた様々なモビリティを組み合わせ、地域の活性化や生活の安全・安心しんを作っていくための方策等を議論

**モデレーター** 経済産業省近畿経済産業局産業部製造産業課課長補佐 廣戸 貴義氏

**観光** 観光の起爆剤、新たなコンテンツの可能性など。  
(公財) 大阪観光局経営企画部長 田中 嘉一氏

**航空飛行** ヘリによる高付加価値観光開発の取組を紹介。  
(公社) ひょうご観光本部事業推進部長 安東 明美氏

**MaaS** 多様なモビリティを融合させたMaaSの取組を紹介。  
scheme verge（株） 代表取締役CEO 峰南 達貴氏

**防災** 民間船舶を活用した災害派遣の事例を参考に、空飛ぶクルマの多用途化に向けた提言など。  
拓殖大学地方政治行政研究所附属防災教育研究センター 特任教授 濱口 和久氏

**救急医療** 多用途化のもう一つの観点である救急医療における可能性や社会実装に向けた取組を紹介。  
慶應義塾大学大学院SDM特任助教 医療搬送システム検討コンソーシアム NEXTAA 事務局 中本 亜紀氏



# ウ. 空飛ぶクルマの社会受容性向上に向けた取り組み

## 2) 試験飛行見学会、出前授業の開催

■■ 試験飛行見学会の実施状況 ■■

- 2024年9月12日 大阪ヘリポートにおいて近隣小学校(西島小学校 約60名)を招待し、試験飛行の見学、機体搭乗、質問コーナーなどを実施。将来の身近な乗り物として感じてもらった。



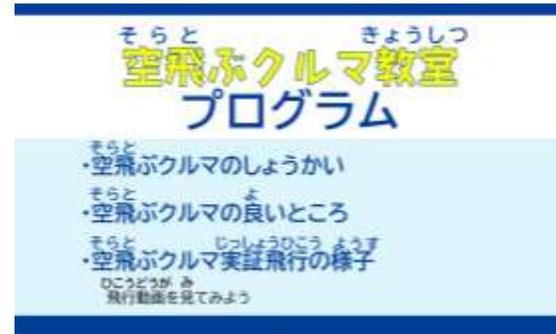
■■ ゼロエミッションフライト見学会の実施状況 ■■

- 2025年3月2日 淡路市市役所前にて、ゼロエミッションフライトの一般見学(約300名参加)を実施。エコでクリーンな乗り物として、実感して頂いた。



■■ 出前授業の実施状況 ■■

- 2025年3月3日 大阪市の中央突堤の近隣小学校(築港小学校 3・4年生 約30名)に対し、空飛ぶクルマの環境面でのメリットに対する理解を深める授業を実施。前日2日に実施したゼロエミッションフライトのビデオに合わせて、淡路メガソーラーと生中継を交え、臨場感を高めた。これにより、空飛ぶクルマがエコでクリーンな将来の乗り物だということを実感してもらった。



---

## 4. 今後の課題

# 今後の課題

---

・2024年度に実施した取り組みを通じて、「今後の課題」として以下の事項を確認しました。

## <今後の課題>

### ■空飛ぶクルマの安全運航のための技術的検証、実運用の検証

- ・管制圏内を含め、既存の空域管理システムとの統合を視野入れた検証
- ・UATMのなど実運用に向けた研究
- ・関西・大阪万博にて実証された空域管理方式の検討
- ・使用予定機の型式証明の状況把握及び外国機の日本型式証明の現状調査

### ■“事業化”に向けたシナリオの具体化

- ・事業化を前提とした具体的シナリオの作成
- ・事業場所・使用機材・運航会社の確定と事業成立性の検討
- ・拠点のシミュレーション実施 など
- ・事業化に必要な協力体制の検討と構築
- ・人材育成含めた体制構築
- ・令和6年度事業での官民協業体制の確立PFI方式の検討

### ■離着陸場の整備・運用課題の検証

- ・公的機関における公共離着陸場の整備に関する機運の上昇
- ・充電施設等、離着陸場の整備・運用に関する細部の検討 など
- ・事業地域で計画中の離着陸場及び離着陸可能な場所の調査

---

# Thank You For Watching.



<申請者>

■一般社団法人MASC

URL ; <https://masc-jp.com/>

提案責任者 鋤本 浩一(Sukimoto Koichi)、Phone ; 080-4208-4475、E-mail :sukimoto@masc-jp.com